

二〇二三年四月一四日

さへづりや千羽鶴吊る大師堂
花筏破りて鯉のはねにけり

なつき
よし子

二〇二三年四月一三日

収束に近きコロナ禍花は葉に
看板のひらがな読めて入学す
クロツカス北の大地を割り出づる
雲のごと大邸宅の花水木

ぼんこ
もとこ
むべ
澄子

二〇二三年四月二二日

甘樫の丘に登れば著莪浄土
野地蔵の首に蓮華の花飾り

明日香
愛正

二〇二三年四月二一日

桜しべ采女の歌碑へふりそそぎ
かご盛りの筍並ぶ寺の市
花の雲へと消ゆジェットコースター
高梯子木の天辺へ剪定師

明日香
なつき
智恵子
豊実

二〇二三年四月一〇日

一溪の風に山吹揺れどほし
囀りを零す大樹の葉擦れかな
古墳出て次の古墳へ青き踏む
幼な子の呼気逞しきシャボン玉
グラウンドゴルフ暫し中断花吹雪
もも色の子豚の鼻へ春の蠅

満天
やよい
愛正
みきお
こすもす
素秀

二〇二三年四月九日

投票終え帰りの道の花は葉に
吊り橋のへつぴり腰に山笑ふ
御仏の御手にとどまる名残花

満天
智恵子
澄子

二〇二三年四月八日

一坪の庭をはみだし豆の花
蝦夷地発つ翼下の大地春霞

よう子
むべ

毎日句会みゆる選・二〇二三年四月一六日